○議長（滝内久生君）　次は、質問順位４番、１つ、下田市の2050年二酸化炭素排出実質ゼロ宣言について、２つ、まどが浜海遊公園への大型複合遊具設置について。

以上、２件について、３番　鈴木　孝君。

〔３番　鈴木　孝君登壇〕

○３番（鈴木　孝君）　公明の鈴木　孝です。

議長への通告に従い、順次質問させていただきます。

最初に、下田市の2050年二酸化炭素排出実質ゼロ宣言について伺います。

2020年10月、政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言しました。「排出を全体としてゼロ」これは二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量を減らし、植林、森林管理、その他の方法よる吸収量を増やして差引き実質ゼロにすることを意味しています。

地球規模の課題である気候変動の問題解決に向けて、2015年にパリ協定が採択され、世界共通の目標として世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて２度より十分低く保ち、1.5度に抑える努力をする。そのため、できる限り早く世界の温室効果ガスの排出量をピークアウトし、21世紀後半には温室効果ガス排出量と吸収量のバランスを取ると掲げました。

この実現に向け、日本をはじめ世界が取組を進めており、120以上の国と地域が「2050年カーボンニュートラル」という目標を掲げています。地域温暖化対策の推進に関する法律では、都道府県及び市町村は、その区域の自然的社会的条件に応じて、温室効果ガスの排出の抑制等のための総合的かつ計画的な施策を策定し、実施するように努めるものとするとされています。こうした制度も踏まえつつ、脱炭素社会に向けて、2050年二酸化炭素実質排出量ゼロに取り組むことを表明した地方公共団体は、令和３年10月29日現在で40都道府県、287市、12特別区、116町、24村となりました。静岡県では御殿場市、浜松市、静岡市、牧之原市、富士宮市、御前崎市、藤枝市、焼津市、伊豆の国市、島田市、富士市、磐田市、湖西市、裾野市の14の市が表明をしています。

こうした時代の潮流を踏まえて、下田市も2050年二酸化炭素実質排出量ゼロに取り組むことを宣言することを提案いたします。下田市として宣言するに当たっての問題点、今後の展望を伺います。

次に、まどが浜海遊公園への大型複合遊具設置について伺います。

大型複合遊具とは、滑り台、ブランコ、ジャングルジム、クライミングボード、ロープやネットを組み合わせたネット遊具等が複合して大きな遊具になっているもので、近年、スー

パーマーケットのキッズ広場、自治体が管理する公園などで設置が進められています。近隣の自治体では令和２年10月に熱海の長浜海浜公園に大規模な複合遊具が設置され、地元の子どもたちや観光客の人気スポットとなっているようです。大型複合遊具は子どもたちに大人気の遊具ですが、単なる楽しさだけでなく、考える力や体力、バランス感覚を養うことができ、他人と関係する遊びの中で社会性やリスクに対応するための学びの場にもなります。

私も静岡市の大型複合遊具のある公園に行き、子どもたちが遊ぶ様子を見てまいりました。そこでは、キラキラとした目で歓声を上げ遊具で遊ぶ姿や、５、６歳の子どもが、後から遊びに来た年下の子どもを優先させて遊具に上らせたり、声をかけて手を引いたりする姿が印象的でした。

私が下田市の子育て世代のお母さんから多く要望されることの１つに駐車場があり、子どもを安心して遊ばせられる公園が欲しいというものがあります。この要望と下田市の状況を考え合わせると、開放的で日当たりがよく、歴史のある下田港を臨むまどが浜海遊公園に大型複合遊具が設置されることが望ましく、地元の子どもを含め、観光で訪れたお客様にも喜んでいただけると確信します。

また、遊具の設置により下田市が子どもを大事にし、子育てを応援する姿勢を目に見える形として表すことができると考えます。

大分県の南部に位置する人口３万3,000人の豊後大野市では、子どもたちが大型複合遊具で遊ぶことを通じて、体力・運動能力の向上、創造性、主体性、協調性の向上を目指すとともに、コロナ禍で子どもたちの様々な活動が制限されることによるメンタルヘルスへの対応、さらに、地域社会経済が大きな打撃を受けている中、大型複合遊具の設置により、多くの家族連れが市内外から訪れ、経済の回復の一端を担うことが期待ができるものとし、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して、令和４年３月の完成を予定しているようであります。ぜひ下田市でも早期設置を提案いたします。下田市としての意向を伺います。

以上で趣旨質問を終わります。

○議長（滝内久生君）　当局の答弁を求めます。

市長。

○市長（松木正一郎君）　いずれも非常に建設的な御質問、ありがとうございます。基本的には全く同意するものでございます。

御指摘のとおり、昨年10月に当時の菅総理が2050年の温室効果ガス排出実質ゼロ、いわゆ

るカーボンニュートラルを表明したことを皮切りに、全国的な広がりを見せています。さらにその先を言えば、今、世界はグレート・リセットと呼ばれる大転換をしようという、こういった時期にいます。従来のライフスタイル、あるいはエネルギー消費型の暮らしというんでしょうか、そうしたものから私たちは脱却しなければならないというふうに学者の人たちが言って、世界中でこの輪が広がりつつあります。

現在、下田市といたしましても、下田市環境基本計画の作成作業を進めているところでございます。脱炭素社会に向けて、この作業を加速し、しっかりと宣言等を行ってまいりたいと思っています。

その他につきましては担当課長から申し上げます。

○議長（滝内久生君）　建設課長。

○建設課長（高野茂章君）　それでは、私のほうから、まどが浜海遊公園の大型複合遊具の設置についてお答えさせていただきます。

まどが浜海遊公園の管理者は議員御存じのとおり静岡県であり、現在、下田市が県より維持管理業務を受託してるところでございます。下田土木事務所に遊具設置の可否について聞き取りした結果、下田市が一部占用することで可能であるとの回答を得ておりますが、占用した場合の委託内容や委託料などの協議が必要となってきます。また、大型遊具を設置するとなりますと、下田市景観まちづくり条例との調整が必要となりますが、前向きに検討していきたいと考えております。

以上です。

○議長（滝内久生君）　企画課長。

○企画課長（鈴木浩之君）　まどが浜海遊公園の活用につきましては、現在、みとなまちゾーン活性化協議会におきまして基本計画の検討を進めております。この検討作業の中で、この公園につきましては人が集う憩いと交流の場として活用していくため、遊具の設置も含め、検討してるところでございます。

また、現在登録に向けて準備を進めております、みなとオアシスにおきましても拠点施設となることが期待されておりますことから、遊具の設置につきましても引き続き関係者の皆様と協議を進めていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（滝内久生君）　３番　鈴木　孝君。

○３番（鈴木　孝君）　回答ありがとうございます。議会や全員協議会などで松木市長の発言

を私、聞いておりますが、非常に景観及び環境に対する意識が高いという発言をしていただいていますので、ぜひ今、宣言している市を静岡の中で申し上げたんですけれども、割と大きな市が中心になってます。それで、伊豆の国市が伊豆半島では宣言してるんですけれども、これで伊豆半島の先端である下田市が宣言することによって、これがオセロのようにパタパタパタと変わって、熱海や伊東、ほかの賀茂の町にも宣言が広がって、急にこの伊豆半島が、例えば今まで黒だったのが、白にばっと変わる可能性があります。ですので、せっかく環境について高い意識を持っておられるので、宣言をして進めていただきたいと思います。

そして、まどが浜の大型遊具ですけれども、いろいろ景観の問題、所有が県の問題、いろいろな問題があると思いますけれども、いろいろな問題をどうクリアして、我々大人たちが子どもたちにやってあげられるかということが非常に必要で、問題がなくて、お金があって、そのままぱっとやってあげても、そんなに喜びはないんですけれども、いろいろな問題をクリアして、それを一つ一つやっていくことで、何か子どもたちが本当に喜んでもらえるものができるんじゃないかと思うんです。

私なんかも下田に育ったもので、この下田市の遊んだ中で、原風景というか、例えば鍋田の海水浴場で夏休み遊んだりしたときに、岩場の高いところで父兄の方が監視をしていただいたんですね。そういうのが子どものときは何も分からなかったんですけれども、今になって考えると、あのお母さんたちが一生懸命、夏の暑いときに見てくれたな、そういう思いがあって、そこが原風景となって、やっぱりこの下田を愛する考えになってるんだと思うんです。

ですので、いろいろな問題はありますが、そこを何か一生懸命、乗り越えていただいて、このコロナウイルスというものが大変な未曾有のことなんですけれども、これのおかげで交付金を使えることができるんじゃないかということで、前々から父兄の方からは要望いただいてたんですけれども、ちょっとお金が下田市、どうかなと思って、ずっと考えてたんですけども、これが、今がチャンスじゃないかと思うんですね。今、チャンス、要するに交付金が使えるチャンスが来てるんで、それを使って市制50周年ということもありますので、何かスピードを上げてやっていただければと思います。

以上です。

○議長（滝内久生君）　市長。

○市長（松木正一郎君）　先ほど私、議員に基本的には同じ方向でございますと申し上げましたが、若干、その実現の難しさについてお話をさせてもらおうと思います。この貴重な時間、

恐縮でございますが。

下田は美しくて貴重なこの自然、海だとか、それから景観とか、あるいは町並みとか、こういったものが観光の目玉、大事な大事な資源でございます。政府が今、将来的に目指している電源構成、電源構成と言ったか、電力構成と言ったか、ちょっと正確には忘れましたけれども。どうやって電力を確保するのかといったののバランスの計画が、政府は一番中心を再生可能エネルギーと言ってるわけです。それが４割近くです、政府の掲げる目標がですね。次が原発なんですね。これは２割強です。残りが２割ずつでＬＮＧ、液化天然ガスと石炭火力、これを燃やしてエネルギーをつくるというものです。再生可能エネルギーを一番中心に持ってこようというのが今の政府の流れで、これによって二酸化炭素の発生を抑制したい、原発もその流れかもしれません。

しかしながら、先ほど申し上げましたように、私どものこの伊豆半島というのは、その自然、貴重な自然空間、自然環境を守らなければいけないといった立場もございます。御存じのとおり、メガソーラーには様々な副産物といいましょうか、外部経済といいましょうか、影響があります。洋上風力もそうです。政府は洋上風力発電を相当強く進めようとしています。けれども今、地域で様々な議論があるのは御承知のとおりです。

したがって、私たちのこの伊豆半島の先端ですぐに停電してしまうようなところ、あるいは南海トラフの地震が起きると孤立化してしまうようなところ、ここでいかにして電力を確保するのか、エネルギーを確保するのかというのは非常に重要な問題だと私は意識していまして、せんだって実施された伊豆サミットという伊豆半島の首長が集まって、知事と意見交換をするという場で、そういった話を提案したところでございます。私たちはこういうのを目指さなければならないんだけれど、カーボンニュートラルを目指すために再生可能エネルギーといって、それをばしばしばしばしつくるというわけにもいかないんですと。

じゃあどうすればいいのかということですけども、私たちの今この地域は人口が少ない。それから２次産業、製造業のような、そういう二酸化炭素をぼんぼん出すような、そういった工場も非常に少ない。こういうことを考えますと、この地域で小電力の発電とか、例えば具体的に言いますと小水力発電とかいろいろありますが、そういったものを導入できないだろうかと。市役所にはエネルギー担当課ってないんですね。県になったらあります。もちろん国もあります。市役所にないんですよ。ですから県のほうに、エネルギーのそういう専門家がいますので、ぜひ御指導いただきたいというふうにこの前、申し上げてきたところです。

カーボンニュートラルというのは、政府はもちろんやると言っていますが、その具体的な

プロセス、あるいは道のり、これは非常に厳しいというふうに言われていて、ある雑誌のタイトルには、何だったかな、安易に脱炭素を語るなというような、かなりショッキングなタイトルが書いてあったような気がします。難しい挑戦ではございますけれども、今後も県の御指導をいただきながら検討を進めていきたいと思っております。

それからもう一つ、子どもたちの遊ぶ遊具、こういったものが必要だというのは、私は本当にそのとおりだと思います。これはもう私、選挙のときから言ってたことなんですけど、公園が非常に少ない。身近な公園に行って、そこで楽しめるようにしなければならないというのがまず１つ。それから次に、かといって、まどが浜に大型の遊具って、大型というのは本当に適切だろうかというのはちょっと考える必要あるかなというふうに思っています。エネルギーの面、まどが浜の遊具の面、両方ともこのまちのスケールに合わせた新しいモデルをつくっていく必要があるかなというふうに自分では思っておりまして、これから様々な場を生かして、様々な場というのはみなとまちゾーン活性化協議会とか、そういう様々な場でそういった議論を喚起して、関係団体の皆様のお知恵とか意見とか頂戴しながら進めていきたいと思っております。ありがとうございました。

○議長（滝内久生君）　３番　鈴木　孝君。

○３番（鈴木　孝君）　全く市長と私も同じ考えなんですけれども、まずエネルギー、排出量ゼロ宣言ということで、例えば下田の排出量ってどれくらいとなったときに、世界に比べれば、例えば中国に比べれば全然大したことなくて、もう全然影響がないぐらいのものだと思うんですね。そうなってくると、じゃあどう考えるかって、私が考えるところによると、まず、例えば市役所の中で排出量ゼロに向けて何をやっていこうかと宣言することでもいいでしょうし、生ごみが出ると、その生ごみをコンポストにする運動をしてみようとか、そういうことでいいんだと思うんです。そういう、せっかくこの二酸化炭素の問題が出たときに、下田市が何か全世界のことを変えられることはないけれども、それを利用して下田市民が一緒になって、その問題に立ち向かって、何か解決しよう、運動しよう、団結しようという、そういうことができれば、これがプラスになると思うんです。ですから、ゼロ宣言したからって、どこまでやればいいというところはないと思うんで、まずできるところから宣言をしてやっていこうというところの宣言でいいんじゃないかなと思うんですね。ですので、足元のところからやっていただければと思います。

あとは、まどが浜の大型複合遊具なんですけれども、これも景観の面からなかなか難しい面もあるかと思うんです。ただ、遊具にも、大型遊具といっても、どのくらい大きいかとか、

どういう色をしてるか、そういう遊具の中でもどういう形をしてるかというものがいろいろな種類があります。その辺も研究していただいて、設置をしていただければと思います。

子どもの目線からすると、例えば木製だから喜ぶかなとなると、どうかなというところあって、やっぱり赤、黄色、青、こういう色がばんと強く出てるほうが、子どもとしてはもう心が湧き上がるんです。ただ、景観から言ったらどうなんだろうかというところをいろんな人と議論していただいて、長浜の大型複合遊具って僕も見たんですけれども、必ずしもそれが下田に合うかなとなったら、ちょっと違うかなという感じがします。もうちょっと控え目で、でも子どもが喜ぶ、そういうものが必ず見つかると思いますので、どうか皆さんで知恵を出し合って進めていただきたいと思います。

以上で終わります。

○議長（滝内久生君）　これをもって、３番　鈴木　孝君の一般質問を終わります。